

一般質問通告書

佐野市議会議長 様

受付	番号 7
	令和 2年 2月19日
	午前・午後 9時33分

議会名	令和 2 年 第 1 回 佐野市議会定例会		
発言者	議席番号 13 番	横 田	誠
答弁を求める者 (選択してください)	市長 ・ 副市長 ・ 教育長 ・ 担当部局長		
一般質問時に使用する資料の有無 (選択してください)	あり (資料提示 ・ 資料配布 ・ モニター使用) なし		
大項目 (質問項目) 中項目 (質問細目)	小項目 (具体的な質問内容)		
1. 災害対策について (1) マイ・タイムラインの作成について	<p>①台風第19号発生以降、市民、自主防災組織や町会等から、防災に関する相談又は防災講習会等の問合せはどのような状況か伺います。</p> <p>②「逃げ遅れゼロ」を実現するため、多くの自治体でマイ・タイムラインの普及及び作成の後押しを進めています。そこで当局はマイ・タイムラインの有効性についてどう捉えているのか見解を伺います。</p> <p>③自主防災組織や町会等の団体と連携し、住民目線のソフト対策として、国土交通省が行っている自分たちが住んでいる地域の洪水リスクなどに関する出前講座や講習会の開催、及びマイ・タイムラインの作成支援をすべきと考えますが当局の見解を伺います。</p> <p>④国土交通省は水害時の準備や避難に関する教育支援として、出前講座のみならず、同省が開発した防災カードや小中学生向けのマイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」を活用した水防教育を推進しています。本市としてそれらの教材を活用</p>		

<p>(2) 災害対応の公用車について</p>	<p>した水防教育についてどのように考えているか伺います。</p> <p>①台風第19号の水害の際に出動した消防車両、救急車両、消防団車両など水没やその他の事由によって故障した公用車の状況を伺います。</p> <p>②消防団車両が故障した機能的要因について伺います。</p> <p>③応急整備支援の「災害協定」締結を検討してはどうか、見解を伺います。</p>
<p>(3) 消防団の機能強化について</p>	<p>①救助用ボートを活用した人命救助の状況について伺います。</p> <p>②洪水又は浸水被害発生時に取り残された市民の救助が可能となるよう、消防団に救助用ボートの配備が必要だと思うが、当局の見解を伺います。</p>
<p>(4) 指定避難所の見直しに当たって</p>	<p>①今回の台風第19号に被災したことを教訓として、避難時及び避難所の安全性を確保するため、避難所に関するあらゆる情報を整理した、避難所毎の「避難所カルテ」を作成すべきと考えますが、当局の見解を伺います。</p>
<p>2. クリケットタウン佐野創造プロジェクトについて</p> <p>(1) 経過について</p>	<p>①秋山氏が地域価値創造マネージャーに就任してから今日に至るまで、ローカライズは市のどのような管理体制の下、プロジェクトを推進してきたのか伺います。</p> <p>②ローカライズの体制では有効なソフト事業を含めてプロジェクト全体を総括的にマネジメントすることは困難とのことではありますが、そうした方針を示した要因について伺います。</p>

<p>(2) 新しい執行体制について</p>	<p>③残りの事業期間中に企画されたローカライズ主催の事業はどのような状況か伺います。</p> <p>①当初、総括的なマネジメントについては地域価値創造マネージャーが行うとして本プロジェクトが推進されてきましたが、改めて執行体制を見直すに当たって、民間事業者（団体・組織）をマネジメント主体とする方針に至った理由について伺います。</p> <p>②本事業を推進するに当たって、当局が考える理想的な執行体制及び総括的なマネジメントの主たる運営主体の在り方について伺います。</p> <p>③K P I の見直しは行うのか伺います。</p> <p>④今後クリケットタウン佐野創造プロジェクトの一環として実施される事業やイベント等への、秋山氏及びローカライズの関わりについて伺います。</p>
<p>(3) 自走化の具体的展望について</p>	<p>①今日までの事業の成果や検証を踏まえ、自走化の具体的イメージについて伺います。</p> <p>②令和2年度の最注力ポイントに、本事業による入込客を活用した地域産業収益向上の仕組み構築とありますが、その具体的イメージについて伺います。</p> <p>③平成28年から5年の事業期間満了後、佐野市国際クリケット場を起点とした本プロジェクトの展望について当局はどのように考えているのか、見解を伺います。</p>